

## 議会報告会2025 全体会報告書

[委員会名]: 文教構成常任委員会 佐々木副委員長班

日 時	令和7年8月19日(火) 18時30分 ~ 20時00分
会 場	山崎本社みんなのあいプラザ 1階多目的ホール
担当委員	佐々木由華議員、井上議員、三宅議員、秋山議員
記 録 者	秋山議員
参 加 者	9名

質疑内容	会場での回答
<p>今年には民生委員の改選期だが、民生委員自身に高齢者が多く、負担も大きく、後継者不足となっている。</p> <p>また定例会が昼間に開かれるので若い世代が出席できない。行政にもそのあたりを改善してもらえないだろうか。</p> <p>へ関心を持たせるような啓発はできないか。</p>	<p>民生委員協議会は民間の機関なので、自分たちで決めれば定例会は夜に開催できる。</p> <p>負担軽減について、民生委員によるお一人暮らしや要支援者名簿記載の高齢者などの訪問を、阿品台では自主防災会やコミュニティでも行ってはどうかという検討もしている。民生委員は厚生労働大臣の委嘱をうけており、要支援者名簿についても守秘義務があり、要支援者名簿を一般市民の自主防災会が扱うには個人情報保護の観点から慎重を期するところがあるので注意が必要だ。</p>
<p>「子どもは宝」というが、児童会の教室が狭く、子どもが楽しくないと言って留守家庭児童館に行っていない。先生方も大変だ。もっと子どもたちにとってより良い環境にできないか。</p>	<p>(意見として伺った)</p>
<p>長期的には森林の復興、短期的には農業の支援に、市としてどれくらい力を入れているのか。</p>	<p>森林については、毎年1,000円を森林環境譲与税、現在は森林環境税となったが、住民税をいただくときに皆さんから国税としていただいている。そのお金が交付され、廿日市市では主に佐伯森林組合の要望も踏まえて林業振興のための事業を佐伯森林組合に業務を委託している現状だ。また一例として廿日市市内の公共施設には地元の木材を使用するようにしている。</p> <p>農業支援については、県の事業で、新規就農者に最大3年間、年間150万円を交付する制度があり、廿日市市はそれを活用して新規農業従事者へ支援していて、吉和地域にその対象者がおられる。</p>
<p>四季が丘、宮園には地区社協がある。民生委員との横の連携があると良いが、他地域はどうか。</p>	<p>阿品、阿品台には地区社協がない。また宮島、大野は支部社協として各1つがある。このように、地域によって違う。行政や市社協、地区社協、自治会、民生委員、地域包括支援センター(行政)と情</p>

	<p>報共有しながら活動ができると良い。</p> <p>民生委員協議会が開かれた時に、地区社協の確認と、現在の連携状況の確認をしてはどうか。</p>
<p>「急速な少子化」、これは国難であり、国にとっても廿日市市にとってもしっかり予算を取り安心して子育てができる廿日市市にして欲しい。</p> <p>転入が多いと言われるが、自治体で子どもを取り合っても仕方ない。廿日市市は、「はつかいち未来ビジョン 2035（次期総合計画の基本構想）（案）」の策定を進めていていいと思うが、そこでもっと少子化対策をやって欲しい。</p>	<p>本市が転入超過でも、広島市など県内から本市へ転入している状況で、子どもや人の取り合いになっている状況だ。</p> <p>特に、若い女性の転出超過、若い世代の転出超過に課題がある。</p>
<p>こども家庭庁は何をやっているのかわからない。</p>	<p>（意見として伺った）</p>
<p>025年度のこども家庭庁の予算は、7兆円だ。給食費や子ども医療費の無償化は地方自治体が別々にやるのではなく国の仕事だと思う。</p>	<p>（意見として伺った）</p>
<p>若い世代の転出超過については、教育、家庭の場で、廿日市市がどれだけ素晴らしいかをもっと子どもたちに教えないとだめだと思う。もっと成人式で強く廿日市市の良さやメリットをアピールすべきだと思う。</p> <p>現実的に、自分の子どもは、最初から就職先については、廿日市市内を探していた。</p>	<p>（意見として伺った）</p>